

2019 GW 山スキー報告 青松（単独）

2019. 4. 29 焼岳南尾根 日帰り

6:10 中の湯温泉出発。登山道入り口から南尾根にとりつくトラバースで約5Mの雪切れあり。以前4月に来たときよりも雪は多いと感じたが南尾根の末端で雪切れが懸念された。そこで直接南尾根にとりつかず、尾根の西側、湿地帯を通り標高1800Mまで谷の東側をすすみそこから南尾根に登りあげた。最後は多分45度以上の急斜面となりシールとクトーでは無理だったのでツボ足に切り替えた。標高2000~2200M?以上では2日前に降雪が



あったと思われザラメの上に湿雪の新雪が数センチ積もっており一部はロール状に流れていた。

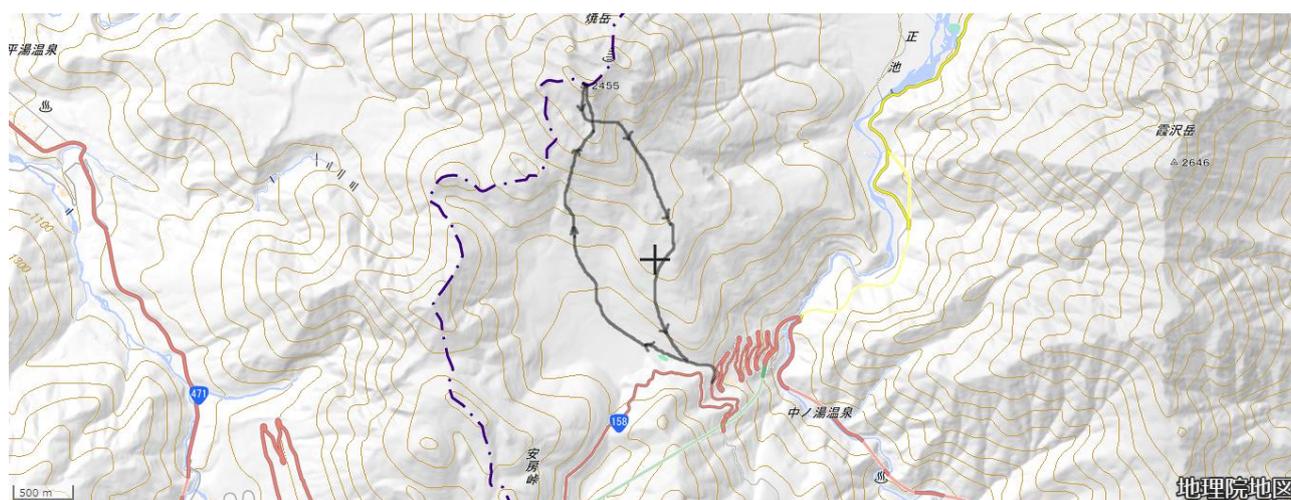


尾根に乗ったのは標高2250M前後でいきなり山頂が間近に見えた。尾根筋に雪はなかったが西斜面の雪をつなぎながら再びシール歩行で山頂まで登りあげた。到着は9:40、3名の登山者がいたが、スキーヤーはおらず。30分ほど山頂に滞在したがスキーヤーは現れず。登山者はぼつぼつやってくる。大賑わいということはない。

10:10 山頂発。登りの過程で下堀沢上部を経由しなかったため北峰直下東面の斜面は確認できなかった。雪崩の危険性は感じなかったがクラック等はわからないので山頂から直接カールには飛び込まず西側斜面を2300Mまで降り、30Mはい松を乗り越えて下堀沢のカール状に入った。斜度が緩やかになると南尾根に向かい1972の小ピークの手前で西の斜面を降り、登りに使った湿地帯を経由し10:50中の湯に戻った。尾根を滑るよりはこちらのコースの方が滑りは楽しいかも？雪質は薄い湿雪とザラメでまあまあ快適な方だったと思う。



焼岳山頂からの奥穂高岳 吊尾根 前穂高岳



2019. 5. 3 鹿島槍ヶ岳西沢

3:45MTBで大谷原出発。林道を押し歩きを交えながら進む。標高1350M辺りで雪が繋がりに出したのでMTBをデポしシール歩行に。そこから程なく西沢出合。看板が立っておりそこには「例年ある西沢からのデブリが少なくスノーブリッジがない、渡渉は自己責任で、上流200Mの堰堤のトンネルで対岸に渡れます。夏道は出ていません」と。どうにか渡れないかと右往左往したがトンネルまで歩いた方が時間の節約になりそうなのでそうした。トンネル対岸から西沢出合までは藪が濃かったり雪がなかったりで結構面倒くさかった。



西沢に入ってからただ高みを目指して進むのみ。徐々に急になってきて板を担ぐかどうか迷ったが、尾根に登り上げる三つの沢状の部分は一番右がシールで上がった。赤岩尾根乗り上げ8:00。尾根に上がると結局は板を担ぐので早めに板を背負って一番左の沢に登るのが最も効率が良かったと思った。

ここからは2488Mのピークへ直登するルートとトラバースするルートがとれるがどちらもかなりの急斜面で滑落は絶対に許されない。かなりの急斜面だがキックステップが効くので助かった。

どうせ同じ急斜面なので登らずに済むトラバースを選択したが緊張感がとても強かった。

すぐに冷池山荘でそこで大休憩。そこから見る山頂へ続く稜線に雪はない。鹿島槍山頂から稜線伝いに滑ってくることは出来ない。西側斜面の雪のあるところを繋いで降りてくることになるが稜線の登山道に復帰するのはい松の藪漕ぎになりそう。



滑りはあまり面白くなさそうに見えた。とりあえず板を持って山頂に向かうが布引山で滑りはあきらめてスキーをデポ。11:30とてりあえず鹿島槍山頂を踏む。寒くはないが風はやや強い。証拠写真を撮って直ぐに下山。



一部スキーを履いて山荘まで戻ってきたが滑りは楽しめなかった。あとは西沢を降りるだけ。登りに緊張した急斜面のトラバースもスキーを履けば何てことはなかった。西沢は快適ザラメで休憩なしで出合までブツ飛ばす。登りでは薄暗く気付かなかったスノーブリッジを見つけることができた。最後は堰堤トンネルまで戻らずに本谷を渡ることができた。最後は林道を少し滑り、その後自転車に乗りあつという間に車まで戻ってきた。14:00。

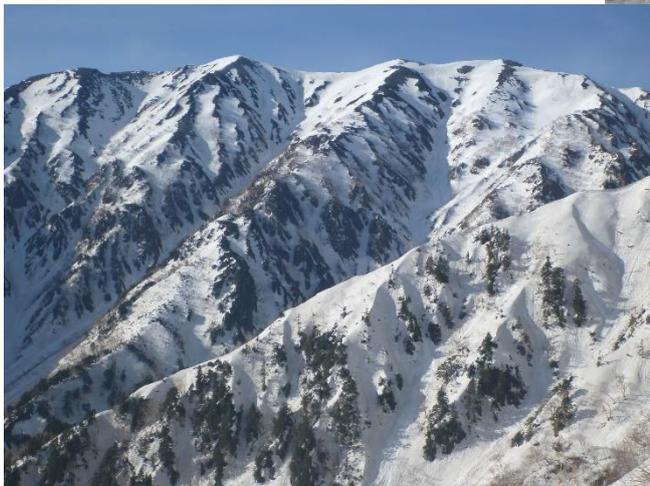
2019.5.4 蓮華岳大沢右俣

6:40 扇沢出発。残雪はやや多く感じた。

7:20 大沢小屋。これから登る針の木雪渓にデブリの山が見える。

ノドのあたりはデブリで埋め尽くされており滑りが可能なのは両端の数Mの部分のみ。はたして大沢はどうか？

9:45 針ノ木峠。ここまでシール登行。大休憩。



10:20 蓮華へ続く稜線は急なのと雪が消えている部分があるのでシートラで出発。斜度が緩くなってきたところで再びシール登行。

11:30 蓮華岳山頂。

11:45 山頂発、滑降開始、やや硬めのザラメ。程なくで快適ザラメに。が漏斗状の斜面が一筋の



沢になる辺りではデブリランドの始まり。針の木雪渓に負けず劣らず。デブリと壁の間をこなす滑りが続く。デブリもまあまあ柔らかいので真っ直ぐ突っ切る滑りは出来る。あとは消化試合で扇沢まで。

12:50 扇沢着。

針ノ木岳 ヤマクボ沢 スバリ岳

2019.5.5 おまけ

朝から帰る予定だったが天気が良いので一滑りしよう。

6:30 扇沢出発。

6:50 赤沢に入る。

8:30、2300Mまで登行。ここまで来るとデブリが多い。

8:45 下降開始。2050M以下の斜面は超快適ザラメ。GW中最高、斜度適当。一番楽しかった。

9:20 扇沢着。